

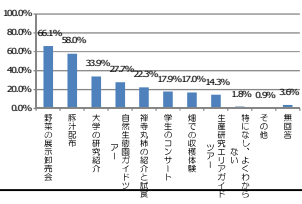
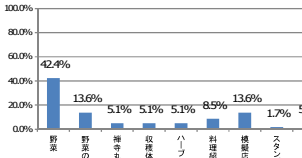
2 市民アンケート結果まとめ（関連事項の抽出）

項目	アンケート	内容
黒川地域の活性化へのポテンシャル	黒川地域での取り組みへの期待（Q19）	里山や農に関する体験イベントが最も上位を占めたが、ほぼ同じ位の割合で、観光農園、農家レストラン、野外料理教室、食のイベント、バーベキュー、食品販売といった 食に関するイベントへの興味が高かった。
地元農産物への期待	かわさき農産物ブランドの認知度と魅力（Q20） 地元農産物を活用した商品の認知度と購入経験（Q21）	認知度としては、 知ってて魅力を感じるが約5割弱。 また、 知らないが魅力を感じるが約4割強で、あわせると約9割の方が魅力を感じている。 商品の購入経験は 約3割弱程度。 認知度は 約7割。 「知らないが今後購入してみたい人」が25/29人と期待は高い。



3 市民アンケート結果（該当箇所/参考）

先のアンケート結果の概要に関する実際の設問内容とアンケート結果のグラフを以下に、参考としてまとめた。

質問	内容
Q4. 収穫祭で良かったところ、行ってみたいところはどこですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭において、「野菜の展示卸売会」66.1%、「豚汁配布」58.0%と評価が高かった。 ・その他、「大学の研究紹介」33.9%は、サラダ試食等を伴っており、全体として、野菜や食に関する催しへの評価が高かった。 
Q5. 展示会で良かった品物や収穫祭でやってほしい事	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜に関する事項が約42%と、評価や今後の期待が高かった。 



3

市民アンケート結果（該当箇所/参考）

質問	内容
Q9.セレスモスを今までに利用したことがありますか？	<ul style="list-style-type: none"> 週1程度の利用者が35.7%を占め、月1程度の利用者を含めると、60.7%を占めた。 認知度はほぼ100%を占めた。
Q10.セレスモスを利用する理由はなんですか？	<ul style="list-style-type: none"> 「朝採れ新鮮野菜の品数が多い」が78.6%、「農産物の直売品が安い」53.6%、「黒川地域やその他地域特産農産物を扱っているから」が38.4%。 新鮮さ、価格、地元農産物に対する評価が高い。
Q11.セレスモス内「農業情報センター」において、川崎市がJAセレス川崎と協力してイベントを開催していますが、参加したことがありますか？	<ul style="list-style-type: none"> 「参加したことがある」が21.4%、「知っているが参加したことはない」が20.5%を占め、約42%の方がイベントがあることを認知している。

3

市民アンケート結果（該当箇所/参考）

質問	内容
Q19.黒川地域において、農と緑の環境を活かした様々な取組みに対し期待したいこと、やってみたいことはありますか？	<ul style="list-style-type: none"> 「里山活動体験」が37.5%、次いで「農業体験」36.6%と体験型の取組みに最も期待が高かった。 「観光農園や農家レストランでの食事」33.9%、野外料理教室23.2%、バーベキュー22.3%、食品販売等20.5%と食に関する取組みへの期待も高かった。 その他「ウォーキングイベントやマラソン大会」が31.3%と高かった。
Q20.かわさき農産物ブランドを知っていますか？また、かわさき産の農産物に魅力を感じていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 「知っている、魅力を感じている」が最も多く46.4%と約半数が魅力を感じている。 知らないが魅力を感じる人と合わせると、90.2%の人が魅力を感じている。
Q21.地元農産物を活かした商品開発やブランド商品を販売していますが、それらを買ったことがありますか？	<ul style="list-style-type: none"> 「商品を買っている・買ったことがある」人は、28.6%だが、認知度としてみると71.5%の人が知っている。 知らない人のうち、今後買ってみたい人は、25/29人を占め、PRを実施する効果が伺える。

4

農業者アンケート結果まとめ（関連事項の抽出）

■農業者アンケートについて

今回の専門部会開催に先駆けて、農業者に対し、アンケートを実施した。
 実施時期：平成26年1月～2月
 回答者数：44名（有効回答数44）
 主な設問：体験型農園等の実施状況や興味、散策路整備について、今後の期待等

項目	アンケート	内容（無回答含まない割合）
黒川地域への期待	黒川地域への期待（Q17）	大学生徒の交流やコミュニティづくりに期待している人が約3割強（12/35名）と最も多かった。
	収穫祭との連携への期待（Q18）	農産物をPRしてほしいと回答した方が、約4割強（18/41名）を占めた。
地元農産物への評価と意向	「かわさきそだち」の認知度と興味等（Q21）	認知度としては、約5割（18/36名）が実際に何らかの提供や利用をしている。知らないが興味がある方は約1割強（6/36名）占めた。
	地元農産物の商品開発への興味等（Q22）	既に実施している方は1名しかいなかったが、興味があると回答した方は、約5割弱（16/34名）占めた。
大学連携	明治大学等との連携への興味関心（Q23）	内容によっては検討したいという意見も含め、興味関心があると回答は、約6割強（20/34名）を占めた。

5

農業者アンケート結果（該当箇所/参考）

質問	内容
Q17.黒川地域において、期待したいこと、やってみたくこと	<ul style="list-style-type: none"> 「大学生との交流や地域のコミュニティづくり」27.3%で最も高かった。「里山活動体験」25.0%、「農業体験」20.5%と期待度が比較的高かった。
Q18.黒川農場収穫祭との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> 「収穫祭に地元農家の農産物のPRをしてもらいたい」40.9%、「収穫祭に黒川の景観と自然のPRをしてもらいたい」34.1%をしめ、農産物と環境のよさのPRを期待している割合が比較的高かった。
Q21.「かわさきそだち」について	<ul style="list-style-type: none"> 「知っていて、直売所に提供している」36.4%。既に関わっている人と、今後の興味を合わせると、54.5%を占めた。一方「興味がない」が27.3%を占めた。

5

農業者アンケート結果（該当箇所/参考）

質問	内容	
Q22.地元農産物を使った商品開発や創作商品について	<ul style="list-style-type: none"> 「興味はある」が36%を占めた。一方、「興味がない」も38.6%とほぼ同等の割合を占めた。 	
Q23.明治大学実験農場やその他の学校との連携について	<ul style="list-style-type: none"> 「興味がある」「内容によっては検討していきたい」が45.4%を占めた。 	



6

部会の活動に向けたニーズの整理

	ニーズ	内容
①	市民の麻生区の農産物への高いニーズ	収穫祭における催しや品物の評価や、セササモスの利用度とその理由から、新鮮な農産物や地場農産物に対するニーズは高い
②	イベント等での農産物の活用の高い有効性	収穫祭での催しやセササモスでのイベントにおいても、農産物や農産物を活用した食の催しは評価が高く、活用の有効性が伺える。
③	かわさきブランドのPR等の高い有効性	市民の認知度は約5割弱で、興味を感じる方が約9割を占め、PRや更なる取組み推進の有効性が伺える。
④	農業者の大学連携やコミュニティづくりへの高い期待	今後の期待として、大学との連携やコミュニティづくりへの興味、期待が高い。
⑤	農業者の地元農産物の商品開発等への比較的高い有効性	興味があるとの回答が約半数弱を占め、まずは実施してみることに有効性が伺える。



7 取組みの方向性（案）

■黒川地区の特性や農業資源

- ・良好な農景観、豊富な農業資源、農体験等の取組み

■市民や農業者のニーズ

- | |
|----------------------------|
| ①市民の麻生区の農産物への高いニーズ |
| ②イベント等での農産物の活用の高い有効性 |
| ③かわさきブランドのPR等の高い有効性 |
| ④農業者の大学連携やコミュニティづくりへの高い期待 |
| ⑤農業者の地元農産物の商品開発等への比較的高い有効性 |

取組みの方向性（案）

取組みの方向性1

新規農産物や加工品の開発検討

取組みの方向性2

農産物のイベント活用やPRの推進

取組みの方向性3

農産物を活用した
大学連携・地域コミュニティづくり

8 取組みの試行的展開（案）

仮設定した「農産物等研究専門部会」の方向性から考えられる取組みについて、今年度試行的に取組みを実施する事で、その取組みの効果や有効性等の確認を行う。

取組みの方向性	試行的な取組み（案）	具体例
(1) 新規農産物や加工品の開発検討	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土作物の発掘、伝統野菜の調査 ・新規作型や新規農産物の研究 ・農産加工品の検討・商品開発 ・商品化検討（販路、販促等） 	<ul style="list-style-type: none"> →岩ちゃん豆等による試行 →新しい作型の研究 →新しい作物の研究 →シカクマメの活用した加工品の開発
(2) 農産物のイベントでの活用やPRの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・商品化可能性調査、試験販売 ・農家等への栽培普及促進 ・商品普及検討 	<ul style="list-style-type: none"> →セレスモス等でのアンケートや販売 →マニュアルの作成配布、種苗配布等 →試食会の実施等
(3) 農産物を活用した大学連携・地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携した商品開発 ・大学と連携した新規農産物研究 ・農を通じたコミュニティづくり（農業者への協理理解の促進） 	<ul style="list-style-type: none"> →大学と連携した商品開発 →提案会の実施 →黒川地区でのマナーアップ検討

(1) 新規農産物や加工品の開発検討

今後取組むべき項目及びその取組み内容の検討と試行実施に向けた検討。

項目	取組み内容
郷土作物の発掘、伝統野菜の調査	試験栽培を行いながら、より良い育て方などの調査を行う。 例) 岩ちゃん豆 等
新規作型や新規農産物の研究	明治大学、神奈川県、川崎市等の研究等で取組んでいる作物の中で、経済性の高い農作物や直売所向けの作物について提案会を行い、興味を持った農家に種苗等を提供し、試験栽培を行ってもらう。
農産加工品の検討・商品開発	加工品の開発に適した作物と加工方法を検討する。 例) シカクマメ シカクマメによる農産加工品の検討・商品開発を検討するにあたり、収穫適期の検討を行う。 シカクマメや岩ちゃん豆を利用した味噌作りを行う為に、大豆との配合比の検討を行う。
商品化検討（販路、販促等）	地域活性化部会と連携し、イベント内でPRしたり、HP等を用いた情報発信を行うなどして、新しい販路の開発や、販売促進方法の検討を行う。



(2) 農産物のイベントでの活用やPRの推進

今後取組むべき項目及びその取組み内容の検討と試行実施に向けた検討。

項目	取組み内容
商品化可能性調査、試験販売	セレスモス等での試験販売や、アンケート調査を行う事で、今後の商品化の可能性を探る
農家等への栽培普及促進	郷土作物や新規農産物の普及に向け、作物の育て方等のマニュアルを作成し、栽培を希望する農家に種苗とともに配布する。
商品普及検討	セレスモスや、明治大学の収穫祭等で、郷土作物、新規農作物、農産加工品の試食会を行う事により、商品を広く普及させるきっかけとする。



9

今年度の試行的取組みの選定

(3) 農産物を活用した大学連携・地域コミュニティづくり

今後取組むべき項目及びその取組み内容の検討と試行実施に向けた検討。

項目	取組み内容
大学と連携した商品開発	明治大学と連携し、黒川の農作物を使った商品開発を行う。
大学と連携した新規農産物研究	明治大学の研究等で取組んでいる作物の中で、経済性の高い農作物や直売所向けの作物について提案会を行い、興味を持った農家に種苗等を提供し、試験栽培を行ってもらう。
農を通じたコミュニティづくり	農のイベントに関連し、黒川地区でのマナーアップにつながるPRを行う事により、市民の農業者への理解・協力を促す。



10

今年度のスケジュール

時期	部会等	(1) 新規農産物や加工品の開発検討		(2) イベントでの活用やPRの推進	(3) 大学連携・地域コミュニティづくり
		新規農産物の開発	加工品の商品開発		
5月	第1回 専門部会 (26日)	・郷土作物や新規作型、新規農産物の検討	・農産加工品の検討	・農産物の活用やPRの検討	
6月	第1回 協議会 (30日)	・郷土作物の発掘、伝統野菜の調査 ・新規作型や新規農産物の研究	・加工用作物（シカクマメ（仮））の定植	・農家等への栽培普及促進	
7月		・栽培マニュアルの作成			
8月		・郷土作物（岩ちゃん豆等）の定植			
9月	第2回 専門部会	・郷土作物や新規作型、新規農産物の検討状況の確認、収穫祭での発表検討	・加工品の試作 ・農産加工品の検討状況の確認、収穫祭での発表検討	・収穫祭でのPR事項の検討	・商品開発の検討 ・新規農産物の農業者への提案会の実施
10月	第2回 協議会		・味噌づくり		
11月		・郷土作物（岩ちゃん豆等）の収穫	・加工用作物（シカクマメ（仮））の収穫		
【収穫祭】					
・成果発表 ・PR試食会の実施 ・アンケート					
12月	試験栽培結果のとりまとめ				
3月	報告会の実施				